

11 道 徳

道徳教育プロジェクト

1. 個が生きる道徳の評価とは

(1) 個が生きる道徳教育

道徳教育は、児童一人一人が人間としてよりよく生きる力を身につけ、心豊かに生きることを目指している。つまり、本校のめざす「個が生きる道徳教育」（子供のよさを生かし、子供が主体的に生きようとする）は、道徳のねらいそのものであると捉えることができる。

個が生きる道徳教育の条件を次のように考えている。

ア 子供の実態を把握して指導する。

実態把握にあたっては、個が生きるという観点から、一人一人のよさや持ち味をまるごと受け入れていく。また、活動前のみでなく、活動中や活動後の実態把握も大切にする。

イ 全員が主体的に参加できる活動を計画する。

外面的な参加としては、児童一人一人が様々な考えを発言したり、表現する場を保障する。

内面的な参加としては、活動の中で一人一人が自分と真剣に対話できるようにする。

道徳教育の評価としては、①児童の道徳性に関わる評価、②計画に関わる評価、③実施に関わる評価がある。②としては、全体計画・道徳の時間の年間計画・学級の指導計画に対する評価がある。また、③は、道徳の時間・各教科における評価や他領域との関連における評価が考えられる。

(2) 個が生きる道徳の授業の評価

道徳の時間の評価にあたっては、次のような評価の観点を考えた。

① よさを発揮させ、促す態度がみられたか。

② 道徳的価値にかかわるよさが理解されたか。

上記①については、授業に対する真剣さ、参加の主体性、友達の考えに対する受容的態度、自己を高めようとする姿勢等を見取っていく。②については、人間のよさや友達のよさ、自分自身のよさの理解が挙げられる。

2. 道徳における「自己を高める評価力の育成」

以上の考え方をもとに、本年度の研究テーマである「自己を高める評価力の育成」について考えていく。

道徳教育や道徳の時間に、自己評価の場を設定したり、自己評価の習慣を身につけさせるだけでは、形式的なものに留まり、十分に自己を高めていくことは達成できない。つまり、①児童や児童を取り巻く環境に対する十分な実態把握、②児童が自分なりに見通しをもつことができる活動や授業づくりを大切にした「自己を高める評価のできる活動や授業づくり」が重要であると考え。ここでは、次の点に焦点をあてて、実践・研究をすすめていく。

ア これから指導しようとする主題についての児童の考え方、感じ方、行動の仕方の実態をどの様に把握するか。

イ 把握した児童の実態を、教師の指導のためだけでなく、児童への資料や情報として、授業の中で生かすことはできないか。

この点について、第5学年の道徳の授業を通して考えていく。

3. 実践事例 -第5学年「かけがえのない命」-

(1) 指導にあたって

① 授業設計の焦点

本主題は、内容3の(2)「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」に該当する内容である。本資料「ライオンと子犬」では、ライオンに生きている犬を与えようとする猛獣使いとそれに同意する見物客との道徳的な問題にかかわる状況が描かれている。ライオンが子犬の命を助けた時の「嵐のような拍手」は、見物客のどのような気持ちを表しているのかを考えさせることを通して、ねらいに迫りたい。

本実践では、事前及び事後に本主題にかかわる児童の意識や体験について調査を行う。この調査の結果は、教師の児童理解のためだけでなく、授業の中で児童自身が活用できるようにしたいと考えた。具体的には、事前調査の内容をもとに、本時の学習のめあてを児童に確認させる。また、事前調査で選択・記述した結果を、児童一人一人がこれまでの自分を振り返り、自己の変容に気付くための資料として位置づける。読み物資料：「ライオンと子犬」(山本雄三「心に太陽をもて」, 学習研究社「みんなのどうとく5年」より)

(2) 授業の実際

① 本時の目標

生命はかけがえのないものであることに気付き、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

② 評価の観点

道徳的心情	生命あるものを大切にする行為に共感する。
道徳的判断力	生命が生き物全てにとって、かけがえのないものであることがわかる。
実践意欲・態度	生命あるもの全てを尊重し大切にしようとする意欲をもつ。

③ 授業の流れ

A 事前調査用紙をもとにして学習のめあてを確かめる場(学習過程1)

本時の前に、本時の主題に関わる事前調査をすでに行っておく。授業では、学習の初めに事前調査結果を返却し、本時の学習のめあてを確認した。

- T (調査用紙を示して) どれを選んだかな。これを書きながら次の道徳は、たぶんこんな事を学習するんじゃないかな、ということが分かりましたか。
- C 僕は、命について学習するんじゃないかな、と思います。
- T 同じかな、と思う人?
(児童ほとんど挙手)
- T その命について、考えてみたいと思います。
(物語テープを流す。)
- T どんな事を思いましたか。
- C 猛獣使いは、動物の命も人間の命も大切と分かっ
てはっと胸をつかれた。



イねらいとする価値に迫らせる場（学習過程3）

嵐のような拍手に表現された見物客の共通する心を推測させることによってねらいとする価値に迫らせていく。ここでは、自分の考えを明確にさせるためにワークシートを用いた。（前ページ右下参照）

学 習 過 程
<p>1 事前に調べた自分の考えや行動の結果を見ながら、今日の学習のめあてを確かめる。</p>
<p>2 資料「ライオンと子犬」を読んで状況を把握する。</p> <p>○ 猛獣使いが、子犬をライオンのおりに投げると言った時、見物客はどうしてさかんな拍手をしたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子犬が食べられるのを見たい ・こわいけど、おもしろそうだ ・どんなことになるのかな ・やめてほしい
<p>3 見物客の気持ちについて話し合う。</p> <p>○ あらしのような拍手は見物客のどの様な気持ちを表しているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子犬の命が助かってよかった ・子犬を助けたライオンの行動に感動した。 ・サーカスのどの芸よりもすばらしい。
<p>4 生命を尊重することについて、これまでの自分たちの生活を振り返る。</p> <p>○ これまでに、命が大切だ、命が助かってよかったと思ったこととはないか。</p> <p>○ 授業前に調べた結果についてもう一度振り返ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命あるものに対する自分の気持ち

T 嵐のような拍手がすごいと言ったけれど、嵐のような拍手は、見物客のどんな気持ちを表した拍手なのでしょう。（児童、ワークシートに記入）

C ライオンの優しさに感動して。

C 子犬を食べないで馬肉を分けてやる行動に感動して。

C 子犬がライオンに食べられなくてよかった。

C 人類どうしても争っているのに、すごい。

C ライオンが馬肉を分けたときの感動とか、入りまじっている。

C 子犬を檻に入れたときは、滅多に見られないから拍手したが、それを反省して、それ以上に拍手した。

T こっちの拍手（さかんな拍手をした絵をさして）と気持ちが違う？

C 猛獣使いが、子犬を檻にいれていいかと聞いて、それに賛成する拍手。

C 生きた子犬を入れるのは滅多にみられない。

C 何気なく拍手。子犬の命について普通なら考えるだろうけど、みんな楽しんでいたから。

T （黒板に左右色分けをしたハート形を書いて）こちら（右）側は……

（児童から「自分の楽しさや喜び」「その時の気分や雰囲気」などの声）

ではこちら（左）側は、……。

C 本当はみたくない。残酷なものは。

T 2つの気持ちが入り交じっているのね。どうして子犬が殺されなくてよかったのでしょうか。気持ちか悪いからですか。

C そういう意味ではなくて。子犬は何もしていないのに投げられた。犬の命を無駄にしてしまうから食べられなくてよかったと思います。

C お客さんは、まさか食べるわけではないとか、そういう気持ちがあったんじゃないかな。

T この子犬はよほど可愛い子犬だったのでしょいか。知らない子犬でもみんなは食べられなくて良かったと思いますか。

C 人間も動物も同じ生き物だと分かりあえた。

C 全部の生き物の命、植物も。

ウ ねらいとする価値と自分との関わりに目を向ける。(学習過程4)

本時のねらいとする価値の自覚を図り、価値と自分との関わりに目を向けさせるために、教師の説話を聞かせた。その後、事前調査の結果を各児童が見ながら自分を振り返る場を設定した。

具体的には、事前調査と同じ内容について、授業の終わりの時点の自分を見つめて、番号および自由記述を行った。その記述と事前に選択及び記述したものを比較させてみた。(右の二重の罫線部分は事前に、破線で囲まれた部分は、児童が事後記入したもの)

(3) 結果と考察

① めあての設定について

事前調査をもとに何についての学習をするのかは、確認できた。反面、物語を聞いた後の感想及び、その後の発言が、命に限定され、意見が出し難くなったとも考えられる。めあての設定を最初に行わず、心の中で各自が考え、資料に入る方法も検討していきたい。

② めあての追求について

本時は、見物客の「嵐のような拍手」と「さかんな拍手」についての2つの発問から、ねらいとする価値に迫らせようとした。ワークシート(嵐のような拍手について)の活用より、自分の考えを十分もって発言することはできたようである。しかし、中には、拍手の大きさや、子犬とライオンの友情の面に意識が向いている児童もみられた。猛獣使いの提案を聞いた時や、子犬が檻の中に放り込まれた時しいんとなった見物客の気持ちについて考える場の設定も必要であると思われる。

③ 自己の振り返り、新たなめあての設定について

本時では、事前事後のアンケート結果を児童一人一人が自分を振り返り、自己の変容に気付くための資料として位置づけた。

右の表は、事前自己調査結果における番号選択の結果である1項目でも番号が変わっている児童は36名(36名中)であった。

しかし、各々の児童の意識は、番号の変化のみでは、十分把握することはできないと考えられる。そこで、事前事後の調査の中に設けた自由記述の欄をみると「やはり、命はとても大切に2つもないので、無駄にしたくない。」「地球の生き物は人間が王様みたいだけど、誰でも命は大切だとあらためて深く感じました。」など、一人一人の児童なりの新たな気付きの表現がみられた。この評価法は、児童の意識を把握する上で、有効であると考えられる。今後、自由記述による評価方法についてさらに考えていきたい。

また、本時の自己評価の項目は、道徳的価値に関するものが中心であった。個が生きる評価を考えていく上で、道徳の授業における児童の意欲・態度の側面、例えば「真剣に考えることができたか」などの自己評価も必要であると思われる。そのあり方について、今後の課題としたい。

(文責 吉浦 公子)

5 年	組	番	名 前	月	日	月	日
--------	---	---	--------	---	---	---	---

* 次の問いを読んで、今の自分に一番近いと思うものを選びましょう。

- 夏休みに学校へ行ってみると、教室の鉢植えの花が枯れています。それを見て、どう思いますか。
 ① 毎日暑いから仕方がないな。
 ② 花を育てるのは、めんどうだな。
 ③ だれかが水をやればよかったのに。
 ④ かわいそうに。自分が水やりに行けばよかったな。
 ①
④
- 「外国で飛行機事故があった」というニュースが伝えられました。聞いた時、どんなことを思いますか。
 ① 飛行機の故障かな。何が原因なのだろう。
 ② 乗っていた人は、運が悪いな。
 ③ 自分や家族が乗っていかなくてよかった。
 ④ 乗客のことが心配だ。みんな無事だといいな。
 ②
④
- バスに乗って、窓の外を見ると、道路で死んでいる子犬を見つけました。あなたはどう思いますか。
 ① 気持ち悪いな。見なければよかった。
 ② きっと、道路に飛び出して、ひかれたんだろう。
 ③ 子犬の顔や、飼い主が見つけたら、悲しむだろうな。
 ④ かわいそうだ。さっかく生まれてきたのに。
 ①
④
- あなたは、これまでおそう式に参列したことがありますか。
 ① 行ったことがある。
 ア 家族や親戚の人のおそう式 () 回
 イ 近所の人や知合いのおそう式 () 回
 ② 行ったことがない。覚えていない。
 ②
- あなたは、これまで家族の人が病気の時、看取りをしたことがありますか。
 ① したことがある。
 ② 簡単に「弟のさくまくら花取り」かいた。
 ③ したことがない。
 ①
- 「いのち」について自分が思うことを書いてみましょう。

番号選択の事前及び事後調査結果 (36名中)

	鉢植えの花				飛行機事故				子 犬			
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
事前	17	3	13	3	11	5	10	10	2	10	9	15
事後	5	0	4	27	2	1	6	27	0	0	8	29